

令和3年度(2021年度) 事業報告書

事業所 法人本部

前年度実績及び評価

①理事会等の開催状況

	理事会(回)	理事協議会(回)	評議員会(回)	施設調整会議(回)	評議員選任・解任委員会(回)
2019年	9	3	1	12	0
2020年	10	0	1	11	0
2021年	9	0	3	10	1

②その他の会議の開催状況

	第三者委員会(回)	第1期中期経営計画策定委員会(回)	第1期中期経営計画策定部会(回)	経営計画調整会議
2019年	3	0	0	0
2020年	2	4	17	0
2021年	2	0	0	5

③理事長職務執行状況報告

	報告回数
2019年	2
2020年	2
2021年	2

④研修会の開催状況

	役員研修会(回)	職員研修会(回)
2019年	2	3
2020年	0	0
2021年	0	0

⑤社会福祉充実残額

	金額(千円)
2019年	214,570
2020年	295,400
2021年	378,900

⑥経営状況(法人全体)

法人全体 (円)				
	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2019年	703,751,286	448,944,230	62,221,793	61,945,478
2020年	726,145,075	454,170,490	83,538,324	83,820,312
2021年	739,545,985	459,114,559	92,973,495	75,520,992

⑦経営状況(本部拠点区分)

本部拠点区分 (円)				
	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2019年	425,000	1,270,000	-10,953,207	-3,664,884
2020年	0	1,055,000	-7,702,029	-2,837,645
2021年	0	1,010,000	-7,791,503	-2,788,399

①理事会等の開催状況について

・令和3年度も新型コロナウイルス感染症の爆発的な拡大の影響により、理事会や評議員会の数回が書面決議の開催に変更となり、理事協議会についてもやむなく中止となった。
 今後はオンライン形式(ZOOM会議)など時代に見合った開催方法などを検討する。

②その他の会議の開催状況について

・第1期中期経営計画に基づき令和4年度から法人本部事務局体制を充実させるため、事務局本部と各事業所との事務分担や人員検討など体制整備にかかる経営計画調整会議を必要に応じ開催した。

③理事長職務執行状況報告について

・決算期、上半期終了時の年間2回実施した。今年度から第1期中期経営計画に基づく進捗や課題を執行状況の資料として様式を整理して添付し、法人全体の経営状況をより分かりやすく報告を行った。

④研修会の開催状況について

・令和3年度も新型コロナウイルス感染症の爆発的な拡大の影響により、計画はしていたが一度も開催できなかった。今後はZOOM等を活用して実施できる方策を検討する。

⑤社会福祉充実残額について

・令和3年度は当初計画の最終年にあたり、年度当初には295,400千円の充実残額が生じているため(仮称)高齢・重心対応型デイサービスセンター事業の補助事業の自己資金分として執行する計画をしていたが、補助事業採択見送りにより令和4年度に新たな次期計画を策定し執行する。

⑥経営状況(法人全体)について

・法人全体としては、当期活動増減差額を7%以上確保できた。(10.2%)

⑦経営状況(本部拠点区分)について

・特別な業務の変更以外大きな変動はなかった。
 (2019年度=50周年記念事業 2020年度=経営計画策定業務 2021年度=ネットワーク構築LAN工事)

⑧その他(特筆すべき事項)

・たかしま会のロゴマークの策定
 職員の応募作品の中から厳正な審査の結果ロゴマークを決定した。
 ・地域貢献事業「行こカー」のリニューアル
 令和2年8月から実施している「行こカー」事業を地域や利用者等の意見や要望に基づき一部変更を加え、令和4年1月からリニューアルをして実施した。
 ・新型コロナウイルス感染症にかかる感染対策の実施
 法人職員全員を対象に唾液PCR検査で実施した。(9月・2月)
 感染した場合等の対応基準を策定した。

令和3年度(2021年度) 事業報告書

事業所 法人本部

	1: 目指す姿 どのような法人を目指すのか。 求める福祉が ここにある 地域とともに 福祉を創る たかしま会 令和2年度に策定した「第1期中期経営計画」に基づき、法人本部を中心とした法人体制の構築を目指すスタートの年度とする	目標数値	令和3年度の振り返り(取り組み実績)
当年度活動方針と事業の進め方	①法人本部署務局体制の充実 : 法人本部の機能充実に向けて具体的に取り組む (令和4年4月1日から 新体制の法人事務局の発足に向けて) <ul style="list-style-type: none"> 法人事務局体制の充実に向けた課題整理 (事務所位置・人員配置・会計事務の整理・各種例規の整理他) 令和4年4月の新法人事務局設置への体制整備 (課題の解決に向けた対応) 	目標 R3年9月 完了 目標 R4年3月 完了	・経営計画調整会議を5回開催し、事務分担や人員体制の整理を行った。 ・令和3年7月に事務局本部準備室を設置し、令和4年4月から事務局本部設置の体制整備を行った。
	②職員体制の再構築 : 法人全体の適正な人員配置を検討する <ul style="list-style-type: none"> 事業所ごとの人員の再検証 (事業量に見合う人員配置の再検証) 法人全体での人員配置の再検証 (法人本部事務局の兼務職員の専属化、施設長・次長・主任クラスの職務分担の見直し) 	目標 R3年9月 完了 目標 R4年3月 完了	・法人全体および事務所ごとの適正な事務職員の人員配置の検討を行い、令和4年度人事異動に反映する。
	③財政基盤の強化 : 経営の安定化を図る(サービスの質の向上、地域福祉推進に寄与、働きやすい職場作り等達成のために) <ul style="list-style-type: none"> 法人全体で、当期活動増減差額を7%以上確保する (法人全体当期活動増減差額/法人全体サービス活動収益) 各事業所【2021年経営計画】を参照 : 社会福祉充実計画の適正な執行(計画最終年度) 新5ヶ年計画の策定(あるいは現計画の年度変更) (高齢・重心対応型生活介護施設新築工事の実施)	目標 当期活動増減差7%以上 目標 R4年3月 策定	・令和3年度に補助事業で予定していた高齢・重心対応型デイサービスセンターが不採択により、社会福祉充実残額の適正な執行ができないため、次期計画の中で使途を再検討する。
	④経営理念の浸透 : 全役職員が理念・倫理綱領のもと行動する <ul style="list-style-type: none"> 各事業所で朝礼時「たかしま会理念」を唱和する 理事会の開催時「たかしま会理念」を唱和する 	目標 R3年4月 から 目標 R3年4月 から	・各事業所で実施した。 ・理事会議案書に資料として毎回添付した。
	⑤効率的・効果的な事務規律の確立 : 法人全体としての事務処理の統一とコスト意識の醸成を図る <ul style="list-style-type: none"> 【事務処理の手引き】、【契約事務の手引き】の作成 経営計画のホローアップ事務(資金計画の見直し) 	目標 R3年9月 完了 目標 R4年3月 完了	・今後検討する。 ・今後検討する。
	⑥トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実 <職員募集の法人一元化> <ul style="list-style-type: none"> 採用計画の作成と募集戦略の検討(インターネットの効果的な活用他) (再掲)事業所ごとの人員の再検証 事業量に見合う人員配置の再検証 (再掲)法人全体での人員配置の再検証 法人本部事務局の兼務職員の専属化、施設長・次長・主任クラスの職務分担の見直し <人材育成> <ul style="list-style-type: none"> 職員研修計画の策定 研修体系の整理と資格取得計画等の作成 <経営計画の見える化> <ul style="list-style-type: none"> ロゴマークの作成 経営計画の策定を契機にロゴマークを作成する 	目標 R3年9月 完了 目標 R3年9月 完了 目標 R4年3月 完了 目標 R3年9月 完了 目標 R3年9月 完了	・令和4年度から法人本部事務局で職員募集は一元化を実施する。 ・令和4年度から法人本部事務局で職員研修の強化を図る。 ・令和3年9月に完了した。

当年度活動方針と事業の進め方	⑦情報収集の強化 : 外部要因の収集 ・ 経営計画のフォローアップ	<input type="text" value="通年"/>	・ 経営計画の単年度終了にあたり課題の検証を行い、次年度で取組修正等を行う。
	⑧サービスの質の向上 ・ 各事業所に、サービスの質の向上を推進 サービスの質の向上の取りまとめ	<input type="text" value="通年"/>	・ 各事業所と連携強化に努めた。
	⑨安全で衛生的なかつ快適な環境の整備 ・ 新型コロナウイルス感染症対策の徹底 ・ 法人全体の事故件数の取りまとめと評価	<input type="text" value="通年"/> <input type="text" value="通年"/>	・ 継続的に実施した。
	⑩老人福祉施設と障害福祉施設の併設の強味を活かす ・ 各事業所に、連携強化を要請	<input type="text" value="通年"/>	・ 各事業所と連携強化に努めた。
	⑪地域における公益的な取り組み ・ 社会貢献事業「行こカー」の評価と充実 事業成果の評価と充実を図る(ボランティア活動等の連携強化) ・ 地域福祉ニーズ調査 地域課題を整理し、社会福祉法人として取り組むべき方策を検討	目標 <input type="text" value="R4年3月"/> 完了	・ 継続的に実施した。
	⑫魅力ある職場環境の構築 ・ 職員の安全と健康の確保 ハラスメント防止対策職員研修会 ・ 職員の処遇の改善 職員人材育成・処遇改善事業の継続実施(社会福祉充実計画事業) ・ 有給休暇取得の促進 有給取得状況調査と評価(取得率) ・ 時間外労働の削減 実施状況の把握と評価 ・ 良好な人間環境を維持する組織風土の醸成 職員親睦会への補助 全職員を対象とした永年勤続表彰の実施 ・ 定年延長制度の検討	目標 <input type="text" value="1回"/> <input type="text" value="通年"/> <input type="text" value="通年"/> <input type="text" value="通年"/> <input type="text" value="通年"/>	・ 継続的に実施した。 ・ 定年延長制度については、今後において十分に協議・検討を要する。
	⑬法人のブランド化 ・ 各事業所に、ブランド化を推進 ブランド化の取りまとめ	<input type="text" value="通年"/>	・ 各事業所と連携強化に努めた。
	⑭広報活動の充実(情報発信の強化) ・ 【ホームページ管理委員会】機能の活性化 広報活動の充実と情報発信の強化	目標 <input type="text" value="R3年9月"/> 完了	・ ホームページでの情報発信を行った。
	⑮先進的な技術やITの取り組み ・ ネットワークの構築(法人本部の充実に向けての環境整備) 必要経費 1,500,000 円 ・ 各事業所に、先進的な技術やITの取り組みを推進	目標 <input type="text" value="R4年4月"/> 完了 <input type="text" value="通年"/>	・ 令和3年10月に完了した。

令和3年度(2021年度) 事業報告書

事業所 藤波園

前年度実績及び評価	①養護入居者数及び利用実績							職員数 (人)		<p>①養護入居者数及び利用実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 入居者の病状の悪化により措置替えとなるケースが多く、また、欠員の補充に時間を要した。 4月以降、病状の悪化等による入居者の措置替えが3件、死亡6件、新たな措置は大津市が5・6・2月に3件、草津市が10月に1件(他の養護からの移転)、高島市が1月に1件であった。 3月末現在 入居者52人 (1・2月に他施設への移動1件、死亡5件、入居2件で4名の減) 高島市からの措置は令和4年1月の1件のみで、令和3年度3名の措置があった大津市も措置を抑える方針であった。今後措置での入居者数の増は見込めないことから、契約入所の規定を定め近隣市町にPRを行っているが、契約入所には至らなかった。
	入居者数 (人/日平均)		措置費実績(円)					正規	非正規	
	2019年	59.3	2019年	36,949,823	92,288,361	129,238,184	17.6	10.2		
	2020年	57.8	2020年	36,530,601	88,837,697	125,368,298	17.6	10.2		
	2021年	54.9	2021年	35,151,454	81,712,981	116,864,435	16.0	9.0		
	②介護保険利用者および利用実績					単位:円		平均介護度		
	利用者(人/月平均)							2019年	3.2	
	2019年	22.3	2019年	52,064,007	6,438,553	58,502,560	2020年	3.4		
	2020年	23.8	2020年	58,084,495	6,608,275	64,692,770	2021年	3.2		
	2021年	26.3	2021年	65,977,767	7,331,023	73,308,790				
③経営状況										
藤波園拠点区分事業総額 (円)										
		サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額					
2019年	189,461,898	119,244,589	7,778,022	4,325,379						
2020年	198,154,247	123,859,440	11,578,338	10,083,168						
2021年	193,730,207	124,052,154	9,956,323	7,425,677						
④生活支援					<p>④生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事は、新型コロナウイルス感染拡大のため昨年度同様、規模を縮小して実施した。また、利用者の外出ができず、地元商店の訪問販売や平和堂のホームサポートを利用して要望に応えた。 新型コロナウイルスワクチン接種を5月に2回、今年2月に1回接種し、感染防止に努めた。 					
⑤環境整備					<p>⑤環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大のため、面会を制限しており、リモート面会・ガラス越し面会に対応した。 面会等の制限により、一部入居者に心理的な負担を強いた。 					
⑥施設整備					<p>⑥施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 老朽化により、機械器具の故障が多く、修繕できず買替が必要なケースが増加した。 擁壁等修繕工事を令和3年12月24日に完了した。 					
⑦その他(特筆すべき事項)					<p>⑦その他(特筆すべき事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症への配慮をしながら、行事等を実施した。 藤の樹工房の作業(玉ねぎ苗植え)へ利用者5名が参加した。 入居者へ藤美寮陶芸教室への参加を呼びかけた。 契約入所の取組状況を県内施設の調査および所在市町への措置費の増額要望を実施した。 					

令和3年度(2021年度) 事業報告書

事業所 藤波園

当年度活動方針と事業の進め方	1:目指す姿 どのような事業所を目指すのか。 尊厳のある生活の場と経営の安定を目指して	目標数値	令和3年度の振り返り(取り組み実績)
	①法人事務局体制の充実 : 法人本部の方針に準じ、連携して実施		・ 法人本部準備室へ事務員1人を出向させた。
	②職員体制の再構築 : 法人本部の方針に準じ、連携して実施		・ 法人本部の方針に準じ、連携して実施した。
	③財政基盤の強化(特定施設の健全経営) : 入居者および特定施設利用者の確保 ・ 新規入居者の確保 ・ 近隣市町村に対する空き情報の発信と関係強化 ・ 介護認定の早期申請と入居時の病状等の確認および介護方針の協議	年平均入居者 目標 <input type="text" value="59.0"/> 人 年平均介護保険利用者 目標 <input type="text" value="25.0"/> 人	実績 <input type="text" value="54.9"/> 人 実績 <input type="text" value="26.3"/> 人 ・ 近隣市町に空き情報を発信するが、養護の措置は5名で、退所は9名であった。 ・ 措置控え等により養護入居者が減少する中、介護保険利用者の増員に務め、目標数値を上回った。
	④経営理念の浸透 : 法人本部の方針に準じ、連携して実施		・ 毎月の職員会議で、理念の唱和を実施し、理念を浸透させた。
	⑤効率的・効果的な事務規律の確立 : 法人本部の方針に準じ、連携して実施		・ 法人本部の方針に準じ、連携して実施した。
	⑥トータルな人材マネジメントの整備 : 常に入居者の立場にたった良質で適切なサービスが継続的に提供できるよう、職員の質の向上を目指す 〈人材育成〉 : 職員のスキルアップ(適正な介護技術の習得) ・ 職員研修 : 職員のスキルアップ(虐待防止に向けた取り組み) ・ 職員研修 : 職員の資格取得に向けての支援 ・ 支援予定人数 介護福祉士・介護支援専門員 各1 : 法人本部の方針に準じ、連携して実施	目標 <input type="text" value="10"/> 人 目標 <input type="text" value="10"/> 人 目標 <input type="text" value="2"/> 人	実績 <input type="text" value="4"/> 人 実績 <input type="text" value="2"/> 人 実績 <input type="text" value="0"/> 人 ・ 入居者の介護方針や事故報告書・ヒヤリハット報告書を介護職員全員で共有することにより、より良い介護の実現に努めた。 ・ コロナの影響で研修の縮小や研修枠の縮減により、十分な参加ができなかった。 ・ 助成制度については来年度以降に実施する。
	⑦情報の収集体制の強化 : 関係機関との連携強化		・ 滋賀県老人施設協議会養護委員会において契約入所にかかる協議を実施した ・ 長浜市内4か所の地域包括へ契約入所のPRを実施した。
	⑧サービスの質の向上 : 常に入居者の立場にたった良質で適正なサービスが継続的に提供できるよう、職員の質の向上を目指す(再掲) 〈人材育成〉 : 職員のスキルアップ(適正な介護技術の習得) ・ 職員研修 : 職員のスキルアップ(虐待防止に向けた取り組み) ・ 職員研修 : 職員の資格取得に向けての支援 ・ 支援予定人数 介護福祉士・介護支援専門員 各1	目標 <input type="text" value="10"/> 人 目標 <input type="text" value="10"/> 人 目標 <input type="text" value="2"/> 人	実績 <input type="text" value="4"/> 人 実績 <input type="text" value="2"/> 人 実績 <input type="text" value="0"/> 人 ・ 入居者の介護方針や事故報告書・ヒヤリハット報告書を介護職員全員で共有することにより、より良い介護の実現に努めた。 ・ コロナの影響で研修の縮小や研修枠の縮減により、十分な参加ができなかった。 ・ 助成制度については来年度以降に実施する。

当年度活動方針と事業の進め方	<p>⑨安全で衛生的かつ快適な環境の整備</p> <p>: 防災マニュアルおよび感染症対策マニュアルの見直し</p>	<p>・5月のコロナワクチン接種に先立ち、アナフィラキシーにかかる研修を内部講師により実施した。マニュアル等の見直しは実施できなかった。</p>
	<p>⑩老人福祉施設と障害福祉施設の併設の強味を活かす</p> <p>・事業所間でアイデアを出し合い、併設の強味を活かせる事業を検討する</p> <p>藤の樹工房および藤美寮と協議</p>	<p>・藤の樹工房の農作業(玉ねぎ苗植え)に藤波園の利用者5名が参加し、交流を図った。</p>
	<p>⑪地域における公益的な取り組み(共生社会を見据えた取り組み)</p> <p>・利益追求のための定員確保を目指すのではなく、緊急避難的に養護老人ホームを必要とする方のための受け皿として事業運営を行う</p>	<p>・緊急的に利用される、ショートステイの利用が増加した。</p>
	<p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <p>: 法人本部の方針に準じ、連携して実施</p>	<p>・法人本部の方針に準じ、連携して実施した。</p>
	<p>⑬法人のブランド化</p> <p>・養護老人ホームの意義および必要性を県内市町に対し発信する。</p> <p>・施設の無い自治体での措置が極端に少ないことから、県内の養護老人ホームに働きかけ、共同で施設の無い自治体に周知を図る</p>	<p>・近隣市町に空き情報を定期的に発信した。</p> <p>・実施できなかった。</p>
	<p>⑭広報活動の充実</p> <p>: 積極的な広報活動やボランティアの受入れ</p>	<p>・コロナにより外部からの立入りを制限したことによりボランティアの受入れはなかった。</p> <p>・機関誌を1回発行した。</p>
<p>⑮先進的な技術やITの取り組み</p> <p>: 法人本部の方針に準じ、連携して実施</p> <p>: 新しく導入した介護保険ソフトを活用した入居者の健康管理</p>	<p>・タブレット端末を利用し、リモート面会を実施した。</p> <p>・介護保険ソフトを活用した入居者の状態を管理した。</p>	

令和3年度(2021年度) 事業報告書

事業所 陽だまり

前年度実績及び評価

①契約者数及び利用実績

平均契約者数 (人)	
2019年	21
2020年	17
2021年	18

在籍職員数 (人)

2019年	18
2020年	17
2021年	16

年度末時点

②介護給付費

	給付費 (円)
2019年	44,898,396
2020年	41,230,379
2021年	38,775,058

利用実績

	所要日数(日)	延利用者数(人)
2019年	365	7,555
2020年	366	7,099
2021年	365	6,535

利用実績内訳

	通いサービス	宿泊サービス	訪問サービス
2019年	3,583	461	3,511
2020年	3,136	262	3,896
2021年	2,893	297	3,345

③経営状況

事業総額 (円)				
	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2019年	53,634,990	43,024,630	- 3,689,548	- 3,745,531
2020年	49,174,080	42,538,139	- 7,674,443	- 7,650,376
2021年	46,005,031	38,114,225	- 6,047,373	- 6,147,785

①契約者数について

- ・6件の新規契約もあったが施設入所・死亡により契約者数が伸び悩んだ。
- ・民生委員、区長、区の集いなどでパンフレットにて利用案内をしたが、契約に結びつかなかった。
- ・湖西ニュータウン、サニータウンへもチラシを戸別配布を行った。

②介護給付費および利用実績について

- ・介護給付費も前年と比べ下回った。
- ・宿泊者数こそ増えたものの、利用実績は全体として減少した。

③経営状況について

- ・昨年度は利用契約数減少のため、人件費を削減し、健全化を図った。利用契約数はなんとか維持したものの、利用者の介護度の軽度化および入院により介護給付費の減少が著しかった。
- ・他の居宅支援事業所および地域包括支援センターの紹介ケースもあるが、毎日3回の調理など限度額を超えたケースであるため、引き続き新規利用ケースの確保のため営業活動を継続する。

④生活支援

- ・新型コロナウイルス感染症への配慮から、次年度についても交流事業は見合わせる。
- ・蔓延防止、緊急事態宣言を受けたが、施設内での活動に絞り、感染対策を行い行事も実施した。
- ・消毒、マスクの着用、利用時前の検温等を徹底し、感染対策に努めた。

⑤環境整備

- ・新型コロナウイルスへの各種対策を迅速に行った(アクリル板設置・検温・マスクの徹底・消毒)現在も継続して感染対策を実施している。

⑥施設整備

- ・12/27の豪雪では融雪が起動せず、除雪車もエンジントラブルにより除雪作業が出来なかった。使用の有無にかかわらず、施設備品の点検を行うことが必要であった。

⑦その他(特筆すべき事項)

- ・地域貢献の一環として、コロナ禍ではあったが、美化活動を定期的に行なった。(4月～10月)
- ・市ヶ崎区の清掃活動に参加した。(7月、10月の2回)
- ・コロナ禍ではあるが、市ヶ崎区の集い(10月)にも参加した。

令和3年度(2021年度) 事業報告書

事業所 陽だまり

	1:目指す姿 どのような事業所を目指すのか。 利用してよかったと思える地域の拠点事業所になろう	目標数値	令和3年度の振り返り(取り組み実績)
当年度活動方針と事業の進め方	①法人本部事務局体制の充実 ・新体制の法人本部事務局の設置に向けて事業所体制を見直していく	通年	・本部とスムーズに連絡調整を行った。
	②職員体制の再構築 ・適正な人員配置に向けて、本部事務局と連携して人員検証を図る ・法人体制の職務分掌と連動して、事業所における業務分掌の見直しを図る	通年	・利用者数に対する人員配置を行い、昨年度実績より当期資金収支差額は少し改善した。 ・現業務内容が整理できていないので、体制と合わせて見直しを継続していくことが必要である。
	③財政基盤の強化(経営数値) ・新規利用者確保による経営基盤の安定化を目指す ・近隣地域の利用者への啓蒙、声掛け(パンフレット配布)	目標 20 人 通年	・3月末の登録者18名である。新規利用契約を行ったが入院等により契約終了により実績は増えなかった。パンフレットを浜分区の会議等や地区へ個別配布をした。
	④経営理念の明確化 ・職員がたかしま会理念を理解し、朝礼時に「たかしま会理念」を唱和する	通年 月1回	・月1回の職員会議時に実施した。
	⑤効率的・効果的な事務規律の確立 ・法人の事務処理の統一化と合わせ、適正な事務処理を行う	通年	・園長および本部事務局と連携しつつ、事務の適正処理に努めた。
	⑥トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実 <人材育成> 1)職員のスキルアップ ・職員研修 (全体研修) ・認知症理解、高齢者虐待、感染症、リスクマネジメント、人権(法定研修を含め) の実施 2)職員の資格取得に向けての支援 (CM更新、認知症実践者、計画作成者研修) 支援予定人数	目標 全職員 人 目標 1 人	・職員会議の中で、リスクマネジメントおよび感染症研修を行った。 ・介護支援専門員1名が更新研修を受講、更新した。
	⑦情報収集体制の強化 ・市内の事業所との連携を強化 小規模多機能型居宅介護事業所および居宅介護支援事業所との情報交換会・勉強会に定期的参加する	目標 4 回/年	・緊急事態宣言発令もあり、一部の研修および情報交換会が中止された。
	⑧サービスの質の向上 <利用者への支援> ・居宅サービス計画書および小規模多機能型居宅介護サービス計画書の作成(定期見直し) ・虐待防止への取り組み(高島市主催の各種研修への参加、チェックリストを活用) ・施設行事の見直し 屋外での活動を増やすなど、コロナ禍でも利用者が楽しめる内容を工夫する ・機能回復訓練等の実施 ラジオ体操に限らず、「高島あしたの体操」など運動メニューを取り入れ、ADLの維持・向上を図る ・体験利用の受け入れ(無料) 体験利用(無料)を提案し、施設を知ってもらう	目標 1~2 回/年 目標 数 回/年 目標 1 回/月 毎日 随時	・計画書の見直しは、サービス内容等の変更の際には適時見直しを行った。 ・今年度は虐待に関する研修会は開催なく参加できなかった。 ・農園作業、ビンゴゲーム、夏祭りなどを施設内行事で開催した。また、ドライブなどは天候に応じて実施した。 ・昼食前にラジオ体操以外に、うめぼし体操などを実施した。 ・前期に2度体験利用を受け入れ、1人サービス利用につながった。

当年度活動方針と事業の進め方	⑨安全で衛生的なかつ快適な環境の整備 ・ 防災マニュアル・防疫マニュアルの見直し 既存のマニュアルを見直し、職員や利用者へ周知徹底を図る ・ 避難訓練の実施 避難訓練、消火訓練を地区の方を交えて実施する	目標 <input type="text" value="2"/> 回/年	・ 既存のマニュアルはあるが、災害時個別避難計画と連動した防災マニュアルを作成する必要がある。 ・ 新型コロナウイルス感染症により地区の方との合同での訓練は行わず、職員のみで行った。
	⑩老人福祉施設と障害者福祉施設の併設の強みを活かす ・ 高齢、障がい者相談機能の充実 たかしま会のサービス利用の高齢、障がい者相談機能を持つ	通年	・ パンフレット、相談会のチラシを作成し、アピールを図った。
	⑪地域における公益的な取り組み ・ 地域会議への参加・協力 地区の要請に応じて職員が参加する ・ 地区の清掃活動参加 地区の清掃活動に職員が出役する ・ 地域美化活動 4月～10月の期間で毎月美化活動を実施する ・ 第三者委員会等への情報提供 苦情案件はもちろん業務遂行上の課題を提出しサービスの向上に努める	目標 <input type="text" value="要請時"/> 回/年 目標 <input type="text" value="2"/> 回/年 目標 <input type="text" value="7"/> 回/年 目標 <input type="text" value="2"/> 回/年	・ 浜分区の見守り隊会議に3度参加した。 ・ 市ヶ崎区清掃活動(7月 10月)に2度参加した。 ・ 7回活動を実施した。
	⑫魅力ある職場環境の構築 ・ 法人の指針に基づき、安全な職場環境の整備を行う	通年	・ 破損箇所については遅滞なく修繕を行った。
	⑬法人のブランド化 ・ 自家製野菜のメニュー作り 新鮮、安全をモットーに昼食に自家製野菜を使っていることをアピールする	目標 <input type="text" value="随時"/>	・ ブログにて行事と合わせて公表した。(焼きも、玉ねぎ収穫など)
	⑭広報活動の充実(情報発信の強化) ・ ホームページや広報誌の内容の充実 法人本部と連携しホームページや広報誌の充実を図る (広報誌) <small>(ホームページ)</small> ・ パンフレットの配置 病院、地域包括支援センターへの配布および市ヶ崎、浜分、金融機関などに設置をお願いする	目標 <input type="text" value="3"/> 回/年 目標 <input type="text" value="随時"/> 目標 <input type="text" value="随時"/>	・ 4月、8月、12月の3回発行した。 ・ 毎月行事ごとに更新した。 ・ 包括に限らず高島病院、今津病院、マキノ病院等へ配布した。
	⑮先進的な技術やITの取り組み ・ 担当者会議の効率化 新型コロナウイルスへの対応としても担当者会議のIT化 ・ 会議の運営 感染対策として各種会議への参加をZOOM等WEBIにて参加する	通年	・ 施設にて担当者会議を実施した。他のサービス事業者は文書照会により実施した。 ・ 各種会議等はWEBIにて参加した。

令和3年度(2021年度) 事業報告書

事業所 藤美寮

①契約者数及び利用実績

●契約者数 施設入所支援

	定員	契約解除者	新規契約者数	今年度契約者数	摘要
2019年	46人	3人	4人	46人	男性26人 女性20人
2020年	46人	3人	3人	46人	男性27人 女性19人
2021年	46人	1人	1人	46人	男性28人 女性18人

短期入所

	今年度末登録者数	今年度末実利用者数	
2019年	62人	29人	男性15人 女性14人
2020年	65人	21人	男性12人 女性9人
2021年	69人	18人	男性10人 女性8人

生活介護

	定員	契約解除者	新規契約者数	今年度契約者数	摘要
2019年	50人	2人	5人	55人	入所者46人 通所者9人
2020年	50人	2人	3人	56人	入所者46人 通所者10人
2021年	50人	1人	4人	59人	入所者46人 通所者13人

●障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	平均区分
2019年	0人	0人	0人	2人	11人	32人	45人	5.67
2020年	0人	0人	0人	3人	12人	31人	46人	5.61
2021年	0人	0人	0人	3人	10人	33人	46人	5.65

●利用実績

【施設入所支援】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		2019年	延べ利用者数	1,336	1,418	1,364	1,420	1,344	1,330	1,341	1,361	1,383	1,379	1,318
	平均利用者数	45.5	45.8	45.5	45.7	43.7	45.2	44.5	45.9	44.8	44.5	45.2	43.3	44.9人/日
2020年	延べ利用者数	1,363	1,407	1,367	1,389	1,390	1,363	1,426	1,380	1,418	1,418	1,288	1,426	16,635人
	平均利用者数	45.5	45.4	45.6	44.9	44.9	45.5	46.0	46.0	45.8	45.8	45.7	46.0	45.6人/日
2021年	延べ利用者数	1,343	1,365	1,409	1,426	1,421	1,380	1,426	1,380	1,426	1,394	1,288	1,397	16,655人
	平均利用者数	44.7	44.0	46.9	46.0	45.8	46.0	46.0	46.0	46.0	44.9	46.0	45.1	45.6人/日

【生活介護】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		2019年	開所日	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	21
	延べ利用者数	1,087	1,171	1,118	1,202	1,152	1,096	1,129	1,151	1,195	1,201	1,095	1,166	13,763人
	平均利用者数	49.5	51.0	50.9	52.3	50.1	49.9	49.1	52.4	52.0	52.3	52.2	50.7	51.0人/日
2020年	開所日	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269日
	延べ利用者数	1,169	1,145	1,174	1,198	1,173	1,139	1,243	1,170	1,215	1,215	1,060	1,219	14,120人
	平均利用者数	53.2	49.8	53.4	52.1	51.0	51.8	54.1	53.2	52.9	52.9	53.0	53.0	52.5人/日
2021年	開所日	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269日
	延べ利用者数	1,173	1,201	1,204	1,242	1,223	1,210	1,253	1,201	1,273	1,279	1,082	1,220	14,561人
	平均利用者数	53.3	52.2	54.7	54.0	53.1	55.0	54.4	54.5	55.3	55.6	54.1	53.0	54.1人/日

前年度実績及び評価

前年度実績及び評価

【短期入所】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年	延べ利用者数	130	115	136	146	132	156	137	175	126	133	148	166	1,700人
	平均利用者数	4.4	3.8	4.6	4.8	4.3	5.2	4.5	5.9	4.1	4.3	5.2	5.4	4.7人/日
2020年	延べ利用者数	151	140	129	139	115	115	153	132	134	134	134	134	1,610人
	平均利用者数	5.1	4.6	4.3	4.5	3.8	3.9	5.0	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4人/日
2021年	延べ利用者数	126	137	147	125	85	106	104	106	135	133	95	87	1,386人
	平均利用者数	4.2	4.5	4.9	4.1	2.8	3.6	3.4	3.6	4.4	4.3	4.3	2.9	3.8人/日

【日中一時】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年	延べ利用者数	123	121	132	145	129	129	124	127	108	110	114	127	1,489人
	平均利用者数	4.1	4.0	4.4	4.7	4.2	4.3	4.0	4.3	3.5	3.6	4.0	4.1	4.1人/日
2020年	延べ利用者数	110	108	127	128	107	121	104	92	97	110	110	110	1,324人
	平均利用者数	3.7	3.5	4.3	4.2	3.5	4.1	3.4	3.1	3.2	3.6	3.6	3.6	3.6人/日
2021年	延べ利用者数	90	109	108	108	80	53	110	105	96	91	93	30	1,073人
	平均利用者数	3.0	3.6	3.6	3.5	2.6	1.8	3.6	3.5	3.1	3.0	3.4	1.0	2.9人/日

②経営状況

施設入所支援事業総額 (円)					生活介護支援事業総額 (円)				
	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額		サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2019年	116,424,789	68,330,810	17,295,950	14,295,671	2019年	181,558,478	114,699,449	30,511,365	24,320,485
2020年	120,033,373	69,001,842	21,314,258	20,407,183	2020年	191,897,554	116,333,580	40,951,506	39,008,038
2021年	125,745,485	71,342,796	23,371,609	17,524,776	2021年	204,222,400	121,156,293	48,444,517	36,221,461

短期入所支援事業総額 (円)					日中一時援事業総額 (円)				
	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額		サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2019年	13,910,976	6,183,724	5,565,661	5,565,745	2019年	4,711,430	2,623,400	1,468,270	1,468,530
2020年	13,269,020	6,238,409	4,942,837	4,942,837	2020年	4,103,450	2,647,600	737,529	737,529
2021年	13,114,228	6,371,443	4,521,154	4,521,258	2021年	4,433,850	2,703,035	1,116,508	1,116,766

前年度実績及び評価	<p>①契約者数・利用実績について</p> <p>【施設入所支援】・8月に1人の退所があったが、長期に渡る短期入所者1人を施設入所の契約に切り替え欠員の補充をした。</p> <p>【生活介護】・今年度は、在宅から新規利用者を4人受け入れたことで、現在通所者数は59人となった。</p> <p>【短期入所】・固定の利用者の利用はあるが、新規登録者が無く障がい者の在宅生活の継続のため、サービスの周知を図る必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して長期の利用者(月31日決定者)を常に数名抱えることで、入所定員の補充に備えた。 <p>【日中一時支援】・コロナの影響により利用控えがあったこと、市内に同サービス事業所が増えたことにより利用者数は減少傾向にある。しかし、短期入所機能の周知をすることで差別化を図り、利用に繋げていく。また、学齢期の保護者にサービスを周知し利用に繋げていく。</p>
	<p>②経営状況について</p> <p>【施設入所支援】・長期に渡る短期入所者を抱えることで入所施設の補充をスムーズにし、収入の安定を図った。</p> <p>【生活介護】・現在は利用者数59人と充足しているが、新規事業開始に伴い利用者の確保が必要である。(長浜圏域にエリアを広げ利用者の確保に努める。)</p> <p>【短期入所】・新型コロナウイルス感染症の影響により利用実績が減少したが、長期に渡る利用があったことから収入は増収となった。安定した経営のため利用者を確保し利用日数を増やす必要がある。</p> <p>【日中一時支援】・新型コロナウイルス感染症の影響で利用控えや市内のサービス事業所の充足に伴い利用日数は減少したが、令和3年度に報酬単価の見直しがあり、障がい特性に応じた加算が設定され、新たな加算を算定することで増収となった。新規利用者の確保により経営の安定を図る必要がある。</p>
	<p>③支援状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日中活動の在り方を検討し、障がい特性に応じた活動内容や活動時間を提示し、安定した生活ができるように努めた。また、月曜日から金曜日の週5日間「お仕事」という位置づけの中で活動時間を確保し、遣り甲斐に繋げることで精神安定を図った。 ・職員を5グループに分け、「自閉症支援に関わる班」と「高齢者支援に関わる班」、それぞれが課題に対して研究・研修し学ぶ場を設け、支援スキルの向上に取り組んだ。その途中経過を発表し合い、職員間で互いに刺激し合うことで、支援に効果が出かけている。 ・「利用者に寄り添う支援の向上」と「仕事に対するモチベーション、遣り甲斐の向上」を目的に「利用者の笑顔を引き出す」「利用者・職員の良い面を見つける」「お互いに認め合う」場面を見つけるために『にやりほっと』の活動を始めた。今後も検証しながら継続をしていく。 ・令和4年3月に第三者評価を受審し、一定の評価を得た。指摘事項は、令和4年度改善に向けて取り組んでいく。 ・歯科協力病院として林歯科医院と協定書を締結し、利用者の口腔衛生に努め健康の維持を図った。この事を、報酬の加算算定し増収の起因となった。
	<p>④環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら職員一人ひとりの意識を高めるよう指導してきたが、2月に新型コロナウイルス感染症の陽性者が確認され集団感染(クラスター)となった。罹患者の療養期間中は、職員が一丸となって利用者の健康の快復に取り組んだ。また、このことを真摯に受け止め、今後はこれまで以上に感染予防対策を徹底していく。 ・感染リスクを考え、施設内の環境を見直した。今後も継続しながらより良い環境に向けて検討する。 ・利用者や保護者に帰省の自粛協力を促し、面会についても時間の制限を実施した。8月と3月には、寮での生活の様子を写真に収め保護者に配布した。 ・新型コロナウイルス感染症のクラスターが起きたことで、「令和3年度滋賀県障害福祉サービス確保のための支援事業費」の補助金の交付申請を受け、防護服やマスク、消毒液等の衛生用品の購入に充当した。
	<p>⑤施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の宿舎解体工事は、令和3年12月20日に完了した。 ・宿舎解体工事に伴う下水道改修工事は、令和4年1月18日に完了した。 ・擁壁等修繕工事は、令和3年12月24日に完了した。
	<p>⑥その他(特筆すべき事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一・第二サニーハイツ・マキノ団地周辺の草刈りと植木の剪定作業の契約を締結し、利用者・職員で作業に出向いた。利用者は、生き生きとした表情をみせ普段にない働きぶりで達成感を感じた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響から外部研修は全て中止となり、オンライン研修に切り替わり、移動時間の短縮等の理由から、多くの職員が受講できた。また、オンデマンド配信を活用し、複数の職員が受講出来た。 ・2月にアンフィニと合同の作品展を安曇川の藤樹の里文化芸術会館で開催した。期間中多くの来場者を迎え事業所のアピールと障がい理解に繋がった。 ・地域の方を対象に陶芸教室を開催し、施設機能を地域に開放した。

令和3年度(2021年度) 事業報告書

事業所 藤美寮

当年度活動方針と事業の進め方	1:目指す姿 入所施設の強みを活かし、利用者や地域で暮らす方 一人ひとりの豊かな生活の実現に向けて事業を展開していく	目標数値	令和3年度の振り返り(取り組み実績)
	<p>①法人本部事務局体制の充実 :法人全体の機能充実に向けて具体的に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人本部との連携強化 <p>②職員体制の再構築 :法人全体の適正な人員配置を検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人本部との連携強化 <p>③財政基盤の強化(経営数値) :新規利用者の確保による障害福祉サービス等事業収入の増額を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活介護通所者の新規利用者の確保(養護学校や相談事業と連携をし新規利用者の確保と地域へのアウトリーチ) (新規事業時) ・短期入所や日中一時の新規利用者確保(養護学校・相談事業所・訪問看護ステーション等の連携による市内利用者の掘り起しをし、契約人数を増やしていく) ・短期入所の長期利用者の確保 <p>:生活介護定員増に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢・重心対応型事業に向けた人材確保と体制整備 (新規事業時) <p>④経営理念の明確化 :全職員が理念・基本方針のもと行動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人本部との連携強化 ・職員朝礼等で理念の唱和をする <p>⑤効率的・効果的な事務規律の確立 :事業所内の事務の見直しと担当割の検討・実施</p>	<p>目標 R3年4月 から</p> <p>目標 R3年4月 から</p> <p>目標 3 人 目標 20 人 目標 各3 人 目標 2 人</p> <p>目標 8 人 目標 R4年3月 完了</p> <p>目標 R3年4月 から 目標 R3年4月 から</p> <p>目標 R3年9月 完了</p>	<p>令和4年度の法人本部立上げに向け、この6月より事務員1名を準備室に出向させた。</p> <p>新規職員採用については、法人本部と連携し採用試験を実施した。</p> <p>今年度は、生活支援員5名を採用し、令和4年4月採用者2名加え、2.0:1から1.7:1の人員配置となった。</p> <p>実績 5 人 ・新規に短期入所事業の長期利用者3人と在宅利用者2人と契約をした。</p> <p>・新規採用職員には、速やかに強度行動障害支援者養成研修に参加をさせ、スキルの向上とそれに伴う加算算定ができるようにした。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響で関係機関に訪問することは控えた。今後は、感染状況を見ながら新規事業立上げに向けて、関係機関に出向き新規利用者の確保に努めていく。</p> <p>・短期入所事業の長期利用者を3人確保することで増収に繋がった。</p> <p>令和4年度に向けて補助金申請をした。今後は、採択の状況等の勘案しながら、必要職種と人員の採用を行う。</p> <p>職員朝礼や職員会議で理念・倫理綱領・行動指針の唱和を実施し、理念を浸透させた。</p> <p>・事務局機能の強化に伴い、次長と事務員の仕事の整理をし、来年度の体制に支障がないように取り組んだ。</p>

<p>当年度活動方針と事業の進め方</p>	<p>⑥トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実</p> <p>【人材育成】</p> <p>：職員のスキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害支援者養成研修に職員を派遣 ・滋賀県発達支援センターからコンサルテーションの導入により支援力の向上 ・高齢障がい者に対する支援力の向上 ・職員意識改革に向けた研修の実施 <p>：権利擁護意識の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師による内部研修と外部研修の受講を計画的に実施 ・「虐待の芽チェックリスト」等虐待防止に対する取り組みの見直しと更なる意識の向上 <p>：職員の資格取得に向けての支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得に向けたサポート体制(社会福祉士・介護福祉士・ケアマネ等) <p>：リーダーの養成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門知識の指導者の育成(専門的な取り組みをしている事業所に派遣し技術の習得) 	<p>目標 5 人/年</p> <p>目標 3 回/年</p> <p>通年</p> <p>目標 2 回/年</p> <p>(各職員) 目標 1 回/年以上</p> <p>目標 全職員</p> <p>通年</p> <p>目標 2 人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害支援者養成セミナー(5回/年)に7人を受講させ職員全体の知識の向上に繋げた。 ・今年度は、職員を5グループに分け、「自閉症支援に係わる班」と「高齢者支援に係わる班」、それぞれが課題に対して研究・研修し学びの場を設け支援スキルの向上に向けて取り組んだ。 ・滋賀県発達支援センターからのコンサルテーションを受け、年3回実施した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響によりZOOM研修となり利用しやすく、受講可能期間を利用し多くの職員に受講させた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、外部研修は中止し、内部研修に切り替え5月と8月にDVD研修を実施した。 ・虐待防止委員会を定期的開催し、システムの見直しをしながら、取り組みやすく改善を図った。 ・積極的な受験に向けて声掛けをし、勤務時間等の配慮をした。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、派遣できなかった。
	<p>⑦情報収集の強化</p> <p>：新たな事業の立上げに向けた対象利用者の発掘と潜在的なニーズと課題の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他機関との連携強化 (高島市役所・市内の相談事業所・働き暮らし応援センター・養護学校・医療機関・訪問看護ステーション等) 	<p>目標 R3年8月 完了</p> <p>通年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度施設整備等補助金申請にあたり、高島市障がい福祉課及びコンパスから情報収集をし、高島市内における課題の整理をした。 ・クレヨンの子の保護者を対象にグループホームについて話す機会があり、藤美奈の事業所内容についても併せて紹介をした。
	<p>⑧サービスの質の向上</p> <p>：意思決定支援の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の個別化支援の提供(状態像の把握とニーズに基づき、専門性を活かした支援) ・利用者個々の身体の状況に応じた日中活動の提供(日常生活動作の維持・向上) <p>：権利擁護の取り組み強化 (第三者委員会議)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止委員会の強化 (会議) ・利用者のプライバシー、個人情報を保護し、信頼性の高いサービスの提供 <p>：生きがい・やりがいの意識の向上(利用者向け)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動時間の確保と内容の充実 ・自主製品(利用者の作品の商品化)のブランド化に向けた検討 ・利用者の社会参加の促進(コロナ禍の状況を踏まえ、実施内容の検討と実施) マキノ町内の清掃とエコフオスター区間清掃管理等 <p>：医療との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嘱託医、協力病院等との連携強化 ・高齢・重心対応型事業に伴う医療職の充実 <p>：第三者評価の受審</p> <p>※地域移行に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高島市障がい福祉計画(第6期)に令和5年度末時点で施設入所者の6%以上が、地域生活に移行することを設定しているため、現在の入所者の中で地域移行に向けて取り組む(※令和5年度末) 	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>目標 2 回/年</p> <p>目標 6 回/年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>目標 R3年度 完了</p> <p>目標 R3年度 完了</p> <p>目標 R4年3月 完了</p> <p>目標 3 名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、更に利用者個々の障がい特性に応じた個別支援を目指し、日課の見直しをした。その中で、障がい特性に応じた活動内容や活動時間を提示し、安定した生活ができるように努めた。 ・定期的に虐待防止委員会を開催し、その内、8月は第三者委員会の委員の方に参画をお願いし、取り組みと今後について助言を得た。 ・4月から若年齢の利用者に対して、月曜日から金曜日の週5日間、「お仕事」という位置づけの中で活動時間を確保し遣り甲斐に繋げることで精神安定を図った。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できなかった。 ・継続してエコフオスターの清掃区間の草刈り等を行った。 ・マキノ第一、第二サニーハイツ・マキノ団地周辺の草刈りと植木の剪定作業の依頼を受け、請負契約を締結し、利用者と一緒に作業に向かい出した。 ・月1回、内科嘱託医による往診を受け、利用者の疾病の早期発見、早期予防に努めた。また、林歯科医院と協定書を締結し、利用者の口腔衛生に努め健康の維持増進を図った。 ・短時間勤務者であるが、看護師2人を採用した。 ・受審機関を滋賀県社会福祉士会とし、3月に第三者評価を受審した。 ・高島市障がい福祉計画(第6期)の進捗状況を把握しながら令和5年度末までに取り組んでいく。

<p>当年度活動方針と事業の進め方</p>	<p>⑨安全で衛生的なかつ快適な環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 衛生的な環境と感染予防対策(新型コロナウイルス等)の徹底 あらゆるリスクに備えた体制整備の強化 (第三者委員会・事故防止委員会・ヒヤリハット・事故報告・想定ヒヤリの取り組み強化と課題の抽出、対策の検討) 消防訓練・不審者対応訓練等の実施 マキノ駅西自治会との協力体制の強化(年1回防災訓練等の実施) 既存のマニュアルの見直しと職員や利用者へ周知の徹底 災害時、福祉避難所運営に向けた取り組みと運営マニュアルの見直し (福祉避難所への被災者受け入れを想定した訓練の実施) 宅地造成に関する指摘事項である切土法面及びコア抜き工事の実施 BCP(事業継続計画)の作成 	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>目標 3 回/年</p> <p>目標 R3年10月 完了</p> <p>目標 R3年9月 完了</p> <p>目標 R3年6月 完了</p> <p>目標 R4年3月 完了</p> <p>目標 R4年3月 完了</p>	<ul style="list-style-type: none"> 特に新型コロナウイルス感染症の対応は、マニュアルに沿って換気・施設内消毒・健康観察等を実施した。 想定ヒヤリや事故報告、ヒヤリハットの取り組み等を継続して行い、事故防止委員会や職員会議で対策等を検討し再発防止に努めた。 新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できなかった。 新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できなかった。 既存のマニュアルの見直しをした。今後は、高島市から求められている避難確保計画の作成に向けて取り組んでいく。 高島建設株式会社と請負契約をし、令和3年12月に工事が完了した。 高島市介護事業所協会主催の研修等に参加し、策定手順やポイントを学んだ。今後、計画に落とし込んでいく。
	<p>⑩老人福祉施設と障害福祉施設の併設の強味を活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> 藤波園入所対象者の選定と移行に向けての取り組み 高齢知的障がい者の現状と課題を行政に伝え改善に向けての働きかけ 藤波園の利用者に陶芸教室の誘い 	<p>目標 R4年3月</p> <p>通年</p> <p>目標 R3年5月 から開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で見学等も出来なかったが、今後は、利用者の意思を大切にしながら進めていく。 高島市障がい福祉課には、機会のあるたびに伝えた。共生型事業を視野に入れながら検討の場を設けていく。 新型コロナウイルス感染症の状況から交流をすることは難しかった。
	<p>⑪地域における公益的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 陶芸教室の開催(地域の方やグループホームの利用者、その他法人事業所の利用者を対象) 本部との連携のもと、「行こカー」事業を見直し、利用者の拡大と使いやすいシステムに調整 法人本部との連携のもと、地域福祉ニーズ調査の実施 地域生活宿泊体験支援事業の場の提供 	<p>目標 R3年5月 から開始</p> <p>目標 R3年4月</p> <p>通年</p> <p>通年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら準備をし、11月から実施し地域の方の参加を得た。 本部事務局と連携をしながら北地区の区長等から意見・要望を聞き、一部変更して実施した。 未実施であったが、令和4年度には、プロジェクトチームを立上げ地域貢献事業内容について検討する。 宿泊体験事業を希望する方、1名の受け入れを行った。
	<p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人本部との連携強化 	<p>通年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 有休の取得率が上がるように主任、副主任に伝えた。新規職員の採用については、見学時等に経営計画等を手渡し、自分達の目指す将来像を伝え魅力を伝えた。 マキノ病院と産業医の協定書を締結し、職員の健康管理体制を整えた。
	<p>⑬法人のブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門性の高い事業所 自主製品(利用者の作品等)のブランド化 	<p>通年</p> <p>通年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現在はコロナ禍の中で、外部研修は殆どなくWEB研修となりその利点を活用し、多くの職員に受講させスキルの向上を目指した。 取り組めなかった。
	<p>⑭広報活動の充実(情報発信の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 月1回、ホームページの更新をし、事業所の取り組み等の発信 事業所のパンフレットの再制作 ボランティア募集の仕組みの見直しと運用 中学生向けのボランティア活動の啓発 ロゴマークを職員の名刺や郵便物等の封筒に使用 	<p>通年</p> <p>目標 R3年8月 完了</p> <p>目標 R3年9月 完了</p> <p>目標 R3年9月 完了</p> <p>目標 R3年10月 完了</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に行事等の取り組みを発信した。 未実施につき、令和4年度に検討する。 新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できなかった。 たかしま会のロゴマークを、名刺や郵便物等の封筒に使用した。
	<p>⑮先進的な技術やITの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、帰省の自粛や面会制限があることから、施設での様子を伝える手段を工夫する コロナ禍の中、外部研修受講に向けて、WEB環境の整備 	<p>通年</p> <p>通年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、帰省を自粛した。8月には、寮での生活の様子を写真に収め保護者に送付した。 新型コロナウイルス感染症の影響により、WEBでの研修や会議が増えたため、既存の機器に部品を追加使用した。今後も必要に応じ機器を整備し、環境を整えていく。

令和3年度(2021年度) 事業報告書

事業所 グループホーム

前年度実績及び評価

①契約者数及び利用実績

契約者数 (人)	
2019年	23
2020年	23
2021年	24

	利用実績	
	所要日数(日)	延利用者数(人)
2019年	365	8,196
2020年	366	8,251
2021年	365	8,313

職員数 (人)	
2019年	19
2020年	20
2021年	21

②訓練等給付費

	訓練等給付費 (円)
2019年	53,888,357
2020年	54,402,403
2021年	56,353,650

③経営状況

	共同生活援助事業総額 (円)			
	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2019年	67,663,420	40,908,795	10,559,987	10,945,500
2020年	71,027,959	41,231,223	11,122,074	11,142,311
2021年	71,521,387	43,313,253	8,931,263	8,950,464

①契約者数・利用実績について

- ・既存の利用者は、疾病による入院等も無く元気にホームでの生活を維持した。
- ・令和4年1月より高木浜ホームの定員を4人から5人に変更し、その後1人の入居者を受け入れ、利用契約者数は24人となった。

②訓練等給付費について

- ・利用者若干の障害支援区分の変更があったことや新型コロナウイルス感染症の影響により、帰省の自粛により訓練等給付費収入は増収になった。

③経営状況について

- ・令和3年度の報酬改定率は+0.56%で、うち新型コロナウイルス感染症に対応するための特例加算が上乘せされたことや帰省の自粛により稼働率が伸びたこと等により、訓練等給付費収入は前年度比1.035増収になった。
- ・利用者の状況に応じた支援体制を目指し、今後は、体制を見直しながら加算の算定をし経営の安定に繋げていく。

④生活支援

- ・2月18日に新型コロナウイルス感染症の陽性者1人を確認し、その後同ホームの利用者6人と世話人4人、羽ばたきの利用者と接触の合った箱館ハウスの利用者1人が濃厚接触者となり、PCR検査を受検した。その結果、利用者2人に陽性が確認された。陽性者は、10日間の施設内療養となり、また、濃厚接触者は、7日間の健康観察となった。幸いにも症状は軽症で現在は全員が健康な状態になり以前の生活に戻った。

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止を世話人・利用者呼びかけ、日々の健康観察、手指消毒の徹底、建物内の換気、買い物等の外出の自粛、マスクの着用その他、テーブルにアクリル板を設置する等、感染予防対策について理解を求め実施した。また、食事については、可能な限り部屋食で提供し、出来るだけ接触を控えた。

- ・コロナ禍の中で思うように外出が出来ず、ストレスを抱えながら生活をしてきた。その為、世話人の買い物代行やテイクアウトで食事を楽しむ、公園や浜辺を散歩する等工夫をしながら新しい生活様式の中で生活を継続した。

⑤環境整備

- ・支援区分の重度化に伴い、世話人の配置基準が多くなった。今後も配置基準を勘案しながら支援をしていく。

⑥施設整備

- ・羽ばたきについては、築15年目を迎え今年度外壁と屋根の塗り替え工事を計画し、12月末には工事を完了した。
- ・経年劣化等により、軽微な備品の買い替えが生じているが、何れも予算内で執行した。

令和3年度(2021年度) 事業報告書

事業所 グループホーム

	1: 目指す姿 それぞれの利用者が望む地域生活がいつまでも継続できる よう体制を整える	目標数値	令和3年度の振り返り(取り組み実績)
当年度活動方針と事業の進め方	①法人本部事務局体制の充実 : 法人全体の機能充実に向けて具体的に取り組む ・法人本部との連携強化	目標 R3年4月 から	・その都度、法人本部と連携を図った。
	②職員体制の再構築 : 法人全体の適正な人員配置を検討する ・法人本部との連携強化	目標 R3年4月 から	・雇用しているキーパーの高齢化が課題となっている。ハローワーク高島を通して求人募集をしていたところ、4月、10月、12月に1名ずつ採用できた。今後も本部と連携し新規職員の雇用に努める。
	③財政基盤の強化(経営数値) : 「たつちの家」の老朽化に伴い将来的に賃借住宅から法人所有にし、定員も4名から7名に増員することで地域ニーズに応えと共により更なる経営の安定化を図る ・「たつちの家」移転先建設予定地の選定 : 適切な人員配置 ・利用者の障害支援区分に応じた職員配置の検証	目標 R3年4月 から 目標 R3年4月 から	・高木浜ホームの入居者希望があり、12月から定員を4名から5名に増員した。その事により、訓練等給付費収入は増収となった。 ・「たつちの家」の老朽化を考え、新たな場所に移転を考えている。移転先の候補地は未定であるが、令和4年度には移転先の候補地を数か所上げ検討する。 ・利用者の障害支援区分に応じて毎月の勤務表の中で適切な職員配置をした。令和4年度、「箱館ハウス」「たつちの家」で世話人の常勤職員を配置することで、福祉専門職配置加算Ⅲが取得出来るよう、世話人の配置を考えた。
	④経営理念の明確化 : 全職員が理念・基本方針のもと行動する ・法人本部との連携強化 ・キーパー会議等で理念を唱和する	目標 R3年4月 から 目標 R3年4月 から	・キーパー会議の際には、たかしま会の「理念」「倫理綱領」「行動指針」の唱和を実施し、法人理念を浸透させた。
	⑤効率的・効果的な事務規律の確立 ・サービス管理責任者の業務の整理	目標 R3年4月 から	・サービス管理責任者の下に担当者を配置したことで、業務の効率化ときめ細かな支援に努め、サービスの向上に努めた。
	⑥トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実 <人材育成> : キーパーのスキルアップ(障がい特性に配慮した支援スキルの習得) ・現行の職員研修に加えて、専門性に特化した研修を実施 <人材確保> : 安定した雇用 ・キーパーの高齢化に伴い若い人の雇用の促進	目標 1 回/年 目標 2 人	・支援困難ケースに対しては、定期的にキーパー会議を行い、利用者の状態を共有し、具体的な支援方法を提示し、支援の構築に向けて取り組んだ。 ・キーパー会議の際に虐待防止研修を実施し、適切な支援に向けて取り組んだ。今後も定期的を実施する。 ・雇用に向けて今後も取り組む。
	⑦情報収集の強化 ・キーパー会議の定期開催 定期的に行い情報の共有化を図り、統一した支援の実施	目標 6 回/年	・個別支援計画の立案に伴う会議や必要に応じ個別のケア会議を開催し、キーパー間の情報の共有を図り統一した支援に向けて取り組んだ。
	⑧サービスの質の向上 <共同生活援助事業への支援> : 意思決定支援の充実を図る ・グループホームごとに余暇活動の選択 ・グループホームごと宅配の給食材料以外に好きなメニューを食べる機会の提供 : 利用者に向けた適切なサービスの提供 高齢者(70歳以上)の年中活動の場と生活の場の検討 : 重度者と中軽度者の住み分け あつとホームと箱館ハウスの合同支援の検討	目標 1 回/月 目標 1 回/月 目標 R4年度 まで 目標 R4年度 まで	・コロナ禍のため、計画通り実施できなかった。 ・各ホーム毎にテイクアウトや手作りの希望献立を実施した。 ・通所先の土日・祝祭日の開所日は、利用者に伝え自分の意思で通所するよう支援をした。また、通院等の引率は、ヘルパー支援を受けることで、キーパー以外の人との関わりを深めた。 ・入居している利用者が今後どのような生活を望むのか等を聞き取りながら、長期的な視野を持って取り組む。

当年度活動方針と事業の進め方	⑨安全で衛生的なかつ快適な環境の整備 ・「羽ばたき」の外壁の塗り替え工事を行い、建物の維持管理 ・あらゆるリスクに備えた体制整備の強化 (第三者委員会・事故防止委員会・ヒヤリハット・事故報告・想定ヒヤリの取り組み強化と課題の抽出、対策の検討) ・消防訓練・不審者対応訓練等の実施 ・防災対策の充実(防災食・発電機等) ・既存のマニュアルの見直しとキーパーや利用者へ周知の徹底	目標 R4年度 完了 通年	・請負業者である株式会社ヤマダエナジーと1,648,690円で契約を締結し、12月に工事を完了した。 ・2月16日「羽ばたき」において新型コロナウイルス感染症の陽性3名を確認し、陽性者を隔離し10日間の施設療養を支援した。
	目標 2 回/年 実績 2 回/年 ・5月(日中)と3月(日中)に避難訓練を実施した。	目標 R3年9月 完了 目標 R3年9月 完了	・防災の日に防災食を喫食し、災害時における状況をイメージした。
	⑩老人福祉施設と障害福祉施設の併設の強味を活かす ・バックアップ施設との連携のもと、見学・体験の機会の提供	目標 R3年9月 から開始	・下半期の中で、対象者に体験等の機会を提供していく予定であったが、新型コロナウイルス感染予防の観点から実施できなかった。
	⑪地域における公益的な取り組み ・藤美奈との連携強化		・新型コロナウイルス感染症の影響により、実施しなかった。
	⑫魅力ある職場環境の構築 ・法人本部との連携強化	通年	・本人の病気休暇や家族の傷病等による介護休暇以外にも有休を取得し易い環境に努めた。
	⑬法人のブランド化 ・土日の日中支援や夜間支援など充実した支援体制という強みを活かし、重度の人も地域生活ができる体制の維持	通年	・在宅生活をしている人に対して、8月に「高木浜ホーム」で体験の場を提供した。その結果、その方より入居希望があり利用に繋がった。
	⑭広報活動の充実(情報発信の強化) ・ホームページを活用し、生活の様子を発信する グループホームのパンフレットの作成	目標 R4年度 まで 目標 R4年度 まで	・コロナ禍から思うように動けず、未整備となっている。令和4年度に早急に対応する。
⑮先進的な技術やITの取り組み ・WEBサイトの活用 コロナ禍で帰省も自粛しているので、保護者へ生活の様子を伝え少しでも安心してもらえるよう取り組む	通年	・保護者の高齢に伴いWEB機能を使うことが難しいため、8月に発行するお便りや保護者との電話のやり取りで日々の様子を伝え、安心感に繋いだ。また、保護者の希望により新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じた上で、帰省や面会を許可し家族との関係を保った。	

令和3年度(2021年度) 事業報告書

事業所 藤美相談支援事業所

前年度実績及び評価

①契約者数及び利用実績

契約者数 (人)	
2019年	103
2020年	100
2021年	102

実績		
	計画数(件)	モニタリング数
2019年	71	196
2020年	45	278
2021年	60	269

②障害福祉サービス等事業収入

	計画相談支援給付費収入 (円)
2019年	3,813,028
2020年	5,957,814
2021年	6,506,891

	職員数 (人)
2019年	相談員(専従)1.0、(兼務)0.1、所長(兼務)1.0
2020年	相談員(専従)1.0、(兼務)0.1、所長(兼務)1.0
2021年	相談員(専従)1.0、(兼務)0.5、所長(兼務)1.0

③経営状況

	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2019年	3,813,028	8,031,065	-4,410,960	851,175
2020年	5,957,814	5,492,094	187,597	191,616
2021年	6,506,891	6,237,741	45,704	-1,505,276

①契約者数・利用実績について

・藤美寮の入居者1人が退所、在宅生活者2人、短期入所者1人を受け入れ、昨年度より契約者数は2人増え102人となった。

②計画相談支援給付費について

・令和3年4月より報酬単価の見直しがあり、計画相談支援給付費の単位数がより細かくなり、7つの体制加算が示された。相談支援専門員が資格や研修等で要件を満たすことで加算が算定できる仕組みとなり、益々相談員の専門性が問われることとなった。

③経営状況について

・加算に必要な研修に向き、より多くの加算を取得できるようにした。また、提供したサービスが必ず報酬に繋がるように意識しながら業務を行った。

④支援等について

・発達障がいの特性に理解がないままに成長し、二次障害として精神疾患を発症したり、家族・事業所の理解がないために支援がうまくいっていないケースが増えた。

・発達障がい者支援センターやコンパスの心理士の助言を得ながら進めているが、その都度課題に対して統一した支援が出来ないため時間を要するケースが多くなった。

・家族の繋がりが希薄化し、将来的な住まいの場を検討したり、調整が必要となるケースが目立った。

・独居の方で近隣に家族等の身内が居なく、調子を崩した場合支援が難しい。また、頼れる人が居なく、度々相談の連絡が入る等、報酬に直結しないケースがあった。

⑤環境整備

・コロナ禍の中、ZOOMなどを活用し、相談業務が効率的に遂行できる工夫をした。

・事務的な業務を担当する相談員を雇用したことで、専従の相談員は本来の相談業務に専念できるようになった。

⑥その他(特筆すべき事項)

・より専門性の高い相談業務を目指すためには、相談員のスキルアップと人員配置の検討は必要であるが、報酬単価が安価であることから、経営面を考えると難しい。

・新たに相談支援初任者研修に1人受講をさせた。

令和3年度(2021年度) 事業報告書

事業所 藤美相談支援事業所

	1:目指す姿 他の事業所との連携のもと、本人が望む生活が継続できるように計画や調整を行う	目標数値	令和3年度の振り返り(取り組み実績)				
当年度活動方針と事業の進め方	①法人本部事務局体制の充実 :法人全体の機能充実に向けて具体的に取り組む ・法人本部との連携強化	目標 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>R3年4月</td></tr></table> から	R3年4月	・法人本部との連携を強化した。			
	R3年4月						
	②職員体制の再構築 :法人全体の適正な人員配置の検討 ・法人本部との連携強化 ・専従と兼務との人員配置と業務の検証	目標 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>R3年4月</td></tr></table> から 目標 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>R3年4月</td></tr></table> から	R3年4月	R3年4月	・法人本部との連携を強化した。 ・計画策定件数や一般相談件数の増加による事務処理の複雑化に伴い、非常勤職員0.4人配置した。		
	R3年4月						
	R3年4月						
	③財政基盤の強化(経営数値) :経営の安定を図る ・更なる加算の取得により収支の黒字化 ・セルフプランの人等、新規利用契約者の確保 ・単独経営できるよう行政に訴える	目標 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>通年</td></tr></table> 目標 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>5</td></tr></table> 人/年 目標 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>通年</td></tr></table>	通年	5	通年	実績 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>2</td></tr></table> 人/年 ・10月に開催された医療的ケア児等コーディネーター養成研修に相談員を派遣した。その事により、加算を取り更なる増収を目指した。 ・令和3年度報酬改定があり、7つの体制加算ができた。研修等の要件を満たし加算が算定できるようになり取得したが、基本報酬単価が安価であることから、経営は厳しい状況となった。	2
	通年						
	5						
通年							
2							
④経営理念の明確化 :全職員が理念・基本方針のもと行動する ・法人本部との連携強化 ・職員朝礼等で理念の唱和	目標 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>R3年4月</td></tr></table> から 目標 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>R3年4月</td></tr></table> から 目標 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>通年</td></tr></table>	R3年4月	R3年4月	通年	・職員会議や職員朝礼時に理念・倫理綱領・行動指針の唱和を実施し、法人理念を浸透させた。		
R3年4月							
R3年4月							
通年							
⑤効率的・効果的な事務規律の確立 ・業務の整理と適切な役割分担	目標 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>通年</td></tr></table>	通年	・4月に所長と常勤相談員と兼務相談員、事務的な業務をする非常勤相談員の中で、業務の分担をし役割を明確にした。				
通年							
⑥トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実 (人材育成) ・事業の継続に必要な体制づくり(相談支援専門員研修) ・スキルアップのため各種研修への参加	目標 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>3</td></tr></table> 人/年 目標 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>1</td></tr></table> 人/年 実績 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>1</td></tr></table> 人/年 実績 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>1</td></tr></table> 人/年	3	1	1	1	・相談支援専門員の研修に新たに職員1人、医療的ケア児等コーディネーター養成研修に相談員1人を派遣した。今後も計画的に資格要件となる研修には職員を派遣し、安定した事業の継続を図る。	
3							
1							
1							
1							
⑦情報収集体制の強化 ・多職種連携の強化 ・他事業所の相談員や行政等の関係機関と連携の強化	目標 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>通年</td></tr></table> 目標 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>通年</td></tr></table>	通年	通年	・利用者の個別ケアにあたっては、高島市役所、地域包括、コンパス、医療機関、各事業所等と連携を強化し、支援と計画に反映させた。また、毎月開催の計画相談支援連絡会に出席し、関係機関と情報を共有した。			
通年							
通年							
⑧サービスの質の向上 :本人に合ったプラン作成 ・本人に必要なサービスを見極めプランに落とす ・関係機関との連携の強化	目標 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>通年</td></tr></table> 目標 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>通年</td></tr></table>	通年	通年	・利用者や家族のニーズを聞き取り、常に中立的な立場で計画立案し支援に繋いだ。 ・支援困難ケースは、計画相談連絡会で発信し、助言を得るなど関係機関との連携を強化して取り組んだ。			
通年							
通年							

当年度活動方針と事業の進め方	⑨安全で衛生的なかつ快適な環境の整備 ・新型コロナウイルス感染症対策の徹底 ・あらゆるリスクに備えた体制整備の強化 (第三者委員会・事故防止委員会・ヒヤリハット・事故報告・想定ヒヤリの取り組み強化と課題の抽出、対策の検討) ・避難行動要支援者に対する災害時の相談業務の強化	通年 通年 通年	・新型コロナウイルス感染症に対する感染対策は常に意識し実施した。 ・避難行動計画については、対象者4人は作成済みである。行動計画の作成にあたっては、民生委員を始め関係機関と連携を取りながら計画立案をした。
	⑩老人福祉施設と障害福祉施設の併設の強味を生かす ・法人の各事業所との連携	目標 R3年4月 から	・毎月事業所でモニタリングを行い、利用者の状態把握に努めた。また、モニタリングの際に聞いた内容は、本人が通所する事業所に伝え、より良い支援に向けて連携して取り組んだ。
	⑪地域における公益的な取り組み ・藤美寮と連携のもと取り組む	通年	・直接的な取り組みはしていないが、地域貢献事業「行こカー」の対象地域の利用者に情報提供をした。
	⑫魅力ある職場環境の構築 ・法人本部との連携強化	通年	・本人の病気休暇や家族の傷病等による介護休暇以外にも有休を取得し易い環境に努めた。
	⑬法人のブランド化 ・法人内事業所との連携の充実 ・たかしま会で採用されたロゴマークを名刺や郵便物用の封筒に印刷し、法人・事業所のアピール	10 月	・8月に決定したたかしま会のロゴマークを名刺や封筒等に掲載し法人のアピールをした。
	⑭広報活動の充実(情報発信の強化) ・ホームページを活用し情報の発信 ・パンフレットの作成	目標 1 回/月 目標 8 月完成	・未実施のため早急を実施する。
	⑮先進的な技術やITの取り組み ・業務の効率を上げるためZOOMなどの活用	通年	・研修や会議等は可能な限りZOOMを活用した。また、個人情報の扱いには充分注意をしながら、メールを使用し業務の効率化を図った。

令和3年度(2021年度) 事業報告書

事業所 アンフィニ

前年度実績及び評価

①契約者数及び利用実績

契約者数 (人)	
2019年	52
2020年	55
2021年	60

	利用実績	
	所要日数(日)	延利用者数(人)
2019年	241	3,216
2020年	241	2,968
2021年	251	3,390

職員数 (人)	
2019年	7
2020年	8
2021年	8

②障害福祉サービス等事業収入

	受託事業収入(公費) (円)	受託事業収入(一般) (円)
2019年	24,831,975	636,507
2020年	23,723,362	594,920
2021年	29,049,175	733,545

③経営状況

	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2019年	25,687,240	16,649,737	2,799,499	2,795,285
2020年	25,420,334	15,975,652	3,460,964	3,493,197
2021年	29,891,390	15,709,047	8,011,387	8,138,767

①契約者数・利用実績について

・契約解除(死亡)3人、新規契約8人で現在の契約者数は60人になった。令和3年度の新規契約者数の目標人数を満した。また、3人の見学者があったが、利用実績までは結び付かなかったため、毎月の活動予定表を手渡す等で関係性を築いた。

・契約者数のうち10人程は長期間に渡る利用が無いが、毎月の活動予定表を届けたり電話で様子を尋ねる等をして関係性を保った。今後は、無理のない範囲でホリデーサロンに誘いかけて利用に結び付ける。

②受託事業収入について

・市内のコロナウイルス感染症の感染状況の影響もあり、通所の自粛や障がい特性等から半日の通所利用が多く、収入は低迷していた。しかし、令和3年5月から月1回土曜日に開所日を設けたことで、受託事業収入は増収となった。

③経営状況について

・令和3年度に報酬単価の見直しがあり、区分単価は0.01%下がったが、障がい特性に応じた加算が設定され、新たな加算を算定することで増収となった。

・半日利用の利用者が増え、燃料費の高騰化や送迎に対する人件費が増加傾向にあった。また、利用状況に応じた職員配置をすることで、経営の安定を図った。

・できるだけ無駄を無くし経費の削減に努めた。

④活動支援

・2月に藤美奈と合同で作品展を安曇川の藤樹の里文化芸術会館で開催した。多くの来場者を迎え事業所のアピールと障がい理解に繋がった。

・新型コロナウイルス感染症拡大の状況に応じて外部からのボランティアや講師の出入りを止めた。

・新たな活動を入れることで、利用人数の増に繋がった。

・6月の茶話会で、所長の来所日を増やして欲しいとの要望を受け、7月より月2回相談受付日を設けた。

⑤環境整備

・利用者の利用人数に応じて職員配置を考えてきたが、利用者の障がい特性上当日の朝に通所のキャンセルが入る等で難しい面があった。

⑥施設整備

・室内照明について、LEDの照明器具の交換で業者見積を取ったところ、リスク分担の60万円を超えることから、高島市に令和4年度の予算要求をした。

・視覚障がいの利用者から室内に点字ブロックを設置して欲しいとの要望があり、高島市と相談し業者に見積り徴取し、3月に設置を完了した。

⑦その他(特筆すべき事項)

・精神障がい者等の居場所作りとして、「ホリデーサロン」と名付け計画したが、広報活動が弱く軌道に乗れていない。

令和3年度(2021年度) 事業報告書

事業所 アンフィニ

	1: 目指す姿 ・個別支援計画に基づき適切な支援を行い、地域生活が継続できるようにする	目標数値	令和3年度の振り返り(取り組み実績)
当年度活動方針と事業の進め方	①法人本部事務局体制の充実 : 法人全体の機能充実に向けて具体的に取り組む ・法人本部との連携強化	目標 <input type="text" value="R3年4月"/> から	・法人本部準備室に事務員1人配置し、連携強化を図った。
	②職員体制の再構築 : 法人全体の適正な人員配置を検討する ・法人本部との連携強化	目標 <input type="text" value="R3年4月"/> から	・利用者の利用状況を見ながら、来年度の職員体制を検討し法人本部に伝えた。
	③財政基盤の強化(経営数値) : 第4期指定管理者として指定を受ける 指定期間: 令和3年4月1日から令和8年3月31日までの5年間) 安定した経営管理の上、地域の福祉サービスの担い手として、責務を果たす : 新規利用者と高い稼働率の確保による受託事業収入の増額を目指す 新規利用者の確保 (養護学校・相談事業所・訪問看護ステーション等の連携による市内利用者の掘り起こしをし、契約人数を増やしていく) 開所日を増やす(土曜に開所日を設ける) : 「障がい者地域生活支援事業」に関する申請手続きの援助 行政が行う支援区分への助言(本人の状態にあった区分決定)	通年 目標 <input type="text" value="5"/> 人 目標 <input type="text" value="8"/> 人/月 目標 <input type="text" value="8"/> 人	・4月に報酬単価の見直しがあり区分単価は若干下がったが、利用者の障がいに応じた加算がついたことで増収につながった。 ・死亡による契約解除3人あった。(新規契約者内訳 グループホーム7人、在宅1人) ・5月より月1日、土曜日に開所日を設けた。 ・申請手続きと区分判定時の立会を行った。
	④経営理念の明確化 : 全職員が理念・基本方針のもと行動する 法人本部との連携強化 職員会議等で理念の唱和	目標 <input type="text" value="R3年4月"/> から 目標 <input type="text" value="R3年4月"/> から	・その都度、法人本部と連携強化を図った。 ・毎月職員会議を行い、その場で理念、倫理綱領、行動指針の唱和を実施した。
	⑤効率的・効果的な事務規律の確立 事業所内の業務内容の必要性と役割を見直し、業務の効率化を図る	目標 <input type="text" value="R3年4月"/> から	・業務内容については、事務分掌表で示し、明確化した。
	⑥トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実 (人材育成) : 職員のスキルアップ 知的障がい者・精神障がい者・身体障がい者への支援スキルを習得するために、定期的に研修会の実施 : 権利擁護意識の強化 講師による内部研修と外部研修の受講を計画的に実施 「早期発見チェックリスト」等虐待防止に対する取り組みの見直し : 職員の資格取得に向けての支援 資格取得に向けたサポート体制(社会福祉士・介護福祉士・ケアマネ等)	目標 <input type="text" value="6"/> 回/年 目標 <input type="text" value="6"/> 回/年 目標 <input type="text" value="R3年4月"/> から 通年	実績 <input type="text" value="8"/> 回/年 実績 <input type="text" value="8"/> 人 ・新型コロナウイルス感染症感染予防のため、Web研修に切り替え2か月に1回、研修を実施した。 ・「早期発見チェックリスト」の継続と上がってきた項目に対して、職員会議の場で議論をした。 ・人事考課の面接時に専門的な資格習得や支援スキルを高める等について伝えた。

当年度活動方針と事業の進め方	⑦情報収集の強化 他機関との連携 (高島市役所・市内の相談事業所・働き暮らし応援センター・養護学校・医療機関・訪問看護ステーション等) 職員自らが、地域に出向き情報の収集(地域サロンの手伝い等)	通年 通年	・高島市自立支援協議会の専門部会に出席し、情報共有と連携をした。 ・職員が「ふれあい食堂」「こども食堂」の手伝いに行き交流をした。今後も継続する。
	⑧サービスの質の向上 小規模事業所の利点を生かし、満足度の高いサービスの提供 保護者(家族)への相談機能を充実させ、レスパイトの役割を果たす 季節の野菜、旬の食材を使用した給食提供 重度心身障がい者を対象に入浴支援の実施	通年 通年 通年 目標 2 回/週	・土曜日に開所日を設けたことで、通所日数が増え重度心身障がい者の家族のレスパイトに繋がった。 ・藤美寮の栄養士に代わって4月からは現場の調理員が献立を立てることで、地元の旬の食材を使用し、季節感のある食事提供に努めた。 ・引き続き週2回重度心身障がい者の方に対して入浴支援を実施した。
	⑨安全で衛生的なかつ快適な環境の整備 衛生的な環境と感染予防対策(新型コロナウイルス等)の徹底 あらゆるリスクに備えた体制整備の強化 (第三者委員会・事故防止委員会・ヒヤリハット・事故報告・想定ヒヤリの取り組み強化と課題の抽出、対策の検討) 不測の事態に備え、避難訓練の実施(隣接する虹の会大地との協力体制の強化) マニュアルの見直しと職員や利用者へ周知徹底 災害時、福祉避難所運営に向けた取り組みと運営マニュアルの見直し (福祉避難所への被災者受け入れを想定した訓練の実施)	通年 通年 目標 2 回/年 実績 2 回/年 9月 完了 9月 完了	・新型コロナウイルス感染症の予防に対しては、職員にマニュアルの徹底を図った。 ・昼食作りの活動の際、利用者が軽い火傷を負うことがあり、高島市に事故報告し、今後の事故防止を徹底した。 ・9月、3月に隣接する事業所と合同で実施した。 ・未実施のため、早急に着手する。
	⑩老人福祉施設と障害福祉施設の併設の強味を活かす 藤美寮との情報交換の場と連携		・アンフィニの通所者で、経済的虐待の疑いのある方1人をたかしま会のグループホームで5日間の受け入れを依頼した。
	⑪地域における公益的な取り組み ホリデーサロンの実施により、障がい者が社会に出るきっかけと居場所の提供	目標 1 回/月	・10月より毎月第一土曜日に日を設定したが、新型コロナウイルス感染症の影響と周知度の弱さから実績には繋がらなかった。
	⑫魅力ある職場環境の構築 法人本部との連携強化	通年	・職員数が少なく昼食後に送迎業務があることから、休憩が取りにくい状況であった。今後は、職員でアイデアを出し合い改善策を考える。
	⑬法人のブランド化 職員は、専門的な支援スキルを高め、適切な支援をすることで、高島圏域の中での担い手となる	通年	・新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、外部講師による研修を中止してきたが、緊急事態宣言が解かれた後、10月に研修会を実施し、精神障がい者への理解を深めた。今後も感染状況を見ながら実施し、職員の支援スキルを高める。
	⑭広報活動の充実(情報発信の強化) ホームページを使い活動内容等情報の発信の強化 ・視覚障害者協会との連携 公共の場にパンフレットを置き、事業所を周知 職員が精神障がい者や身体障がい者の当事者や保護者の集まりに参加し、事業所を周知	通年 目標 R3年4月 から 通年	・新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が解かれた後、視覚障害者協会、身体障害者福祉協会主催の行事に利用者と一緒に参加をし交流を図った。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できなかった。
	⑮先進的な技術やITの取り組み WEB研修等の環境整備	目標 9月 完了	・現在、パソコンは、藤美寮からの借用品で行っているが、今後は購入を視野に入れながら検討する。

令和3年度(2021年度) 事業報告書

事業所 藤の樹工房

前年度実績及び評価

①契約者数及び利用実績

契約者数 (人)		利用実績		職員数 (人)	
年	数	所要日数(日)	延利用者数(人)	年	数
2019年	26			2019年	8
2020年	29	2019年	240	2020年	8
2021年	28	2020年	242	2021年	9
		2021年	242		

②訓練等給付費

年	訓練等給付費 (円)
2019年	42,115,103
2020年	42,760,286
2021年	39,650,557

③就労支援事業(生産活動)

年	生産活動総額 (円)	利用者工賃支払総額 (円)	平賃工賃月額 (円)
2019年	3,529,887	3,210,284	10,224
2020年	2,953,478	2,555,635	8,037
2021年	3,645,007	3,021,749	10,243

④経営状況

年	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2019年	46,545,037	27,978,031	5,296,754	4,788,123
2020年	47,109,344	29,797,511	4,619,693	4,302,454
2021年	44,375,116	29,104,572	2,413,906	2,063,283

①契約者数・利用実績について

・前年度に比べ、利用者の1人減に加え年度途中より通所の途絶えている利用者が2人出たため、延利用者数減少の要因となった。

・精神科を退院する予定の人について、関係機関と連携を図り、利用につながった。

②訓練等給付費について

・平日開所目標241日のところ、大雪による閉所が2日、新型コロナウイルス感染症の影響による閉所が2日と、平日の開所日が4日減となったが、10月より開始した「土曜開所」が計5日あったことから、総開所日数は、前年度と同じ242日となった。ただ、延利用者数が約450人減少したため、訓練等給付費は大幅な減収となった。

③就労支援事業について(生産活動)

・受注加工部門は、新型コロナウイルス感染症の影響もなく、以前より多い受注状態となった。

・自主製品部門は、よもぎ湯の素の売り上げが好調であった。道の駅売場の販促を強化したこと、個人客への発送依頼の増加により大幅な増収となった。また、生産体制を見直し作業の効率化を図ったことで、生産量が前年度の約2倍になった。秋の繁忙期には、赤十字奉仕団やボランティアの協力を得て売場の欠品を防いだ。

・野菜の生産は、かぼちゃが長梅雨と猛暑の影響で不作であったが、その他は全て豊作であり、玉ねぎ、さつまいも、じゃがいも、大根、かぶらを市内の給食センターに納品した他、滋賀県障害福祉課の事業「びわ湖まんぶく市場」への出店・出荷を行った。また、なじみの個人客への販売に加え、HPからの発信により販売につながったものもあった。

・受注作業部門は、天候不順等の理由で既存の取引先からの受注が減ったが、新規の農作業受注先を1件開拓することができた。地元の高齢農家の手伝いとして、今後も取引を続ける予定である。

・内部売上部門は、藤美寮への野菜販売を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響があり実績はなかった。

④経営状況について

・人件費支出は、事務局長交代により、夏季賞与の額に変動があったため減少した。

・事業費は、昨年度の新型コロナウイルス感染症関連補助金を適用して備蓄した感染対策用備品の在庫が十分であることから、保健衛生費支出を抑えることができたものの、ガンリン代の高騰、公用車の経年劣化による故障の修理が多発したことで、車輛費支出が増加した。

・事務費は、施設内の修繕が少なかったことから修繕費支出が減少した。その他、複合機の新型機導入に伴うパフォーマンス料減により保守料支出が減少した。

⑤生活支援

・高島市の地域生活支援拠点等に登録し、藤美寮に措置入所となった利用者を受け入れ3か月間支援した。

・長期に事業所を休んでいる利用者に対し、自宅訪問を行った他、市や相談事業所との連携を強化したが、利用には至らず退所となった。

・新型コロナウイルス感染症予防の観点から施設内行事を縮小した。感染対策に十分に配慮を行った上で、食事会および接触の機会を減らしたイベントを開催した。

⑥環境・施設整備

・作業室や倉庫等、施設内を整理し、内職の在庫の把握や在庫スペースの拡充を行なった。

・利用者の作業環境を整えるため、窓の日差し除けの取り付けや作業機の配置の見直しを行った。

令和3年度(2021年度) 事業報告書

事業所 藤の樹工房

当年度活動方針と事業の進め方	1: 目指す姿 どのような事業所を目指すのか 利用者の個性を活かし、楽しく働くことで、充実した毎日が送れるよう支援する。その人にとっての「居場所」となる ー 自分らしさを再発見！ 働く喜びを見つけようー	目標数値	令和3年度の振り返り(取り組み実績)
	①法人本部事務局体制の充実 : 法人本部の機能充実に向けて本部と連携して取り組む		法人本部の方針に準じ、連携して実施した。
	②職員体制の再構築 : 法人本部と連携して事業量に見合う人員配置を再検証する		法人本部の方針に準じ、連携して実施した。
	③財政基盤の強化 : 新規利用者の確保と稼働率の向上による訓練給付費の増額を目指す ・新規利用者確保の目標人数 2人入所 新旭養護学校・相談事業所・精神病院地域連携室との連携による市内利用者の掘り起こし ・稼働率の向上の目標日数 10月より第1、第3土曜日の追加開所(月の開所上限23日に近づける) 上記を実施することで、目標値を達成する	目標 <input type="text" value="2"/> 人 目標 <input type="text" value="248"/> 日 (単位:千円)	・新規利用者は、5月に1人受け入れたが、3か月支援した後、転居に伴い退所となった。1月に病院から退院した人を1人受け入れた。 ・施設見学の依頼が7件あり、うち4件は見学を終えたが利用には結びつかなかった。1件は実習をしたが利用には繋がらなかった。残りの2件は新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の発出に伴い、保留となった。 ・10月からグループホームの利用者を対象に土曜日開所を実施した。合計5回実施し、延べ36人の利用があった。
	④経営理念の明確化 : 法人本部と連携して理念・基本方針のもと、朝礼時に「たかしま会理念」を唱和する		・新型コロナ感染に配慮し、職員会議の前に全員で黙読した。
	⑤効率的・効果的な事務規律の確保 : 法人本部と連携して事業所内の事務の見直しとコスト意識の醸成を図る : 「気づきメモ」による事務の合理化および危険回避 毎週月曜日「気づきメモ」の内容を報告し事務の合理化や危機管理等に努める、また、1年間を振り返り評価する	通年	・毎週月曜日の職員朝礼時、「気づきメモ」の内容を報告、職員全員で情報を共有し事故の未然防止に努めた。
	⑥トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実 (人材育成) : 職員のスキルアップ(3障害に対する知識の習得) ・職員研修 強度行動障害基礎研修に参加する : 職員のスキルアップ(利用者工賃向上に対する知識の習得) ・職員研修 滋賀県社会就労事業振興センター講師による研修や他事業所の視察を行う : 職員の資格取得に向けての支援 ・支援予定人数 大型特殊免許取得に向けての支援を行う : 楽しく働ける職場づくり 休憩時間の確保や福利厚生充実等、安心して働ける職場づくりを行う	目標 <input type="text" value="2"/> 人 目標 <input type="text" value="8"/> 人 目標 <input type="text" value="1"/> 人	・強度行動障害研修基礎研修(第一回目 令和3年10月)に申し込み、臨時職員1人が受講した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により行えなかった。その代替りとして、事業所内で就労支援に関する動画を視聴し職員研修とした。 ・日程の調整がつかず、実施できなかった。 ・前年度同様、昼食時の利用者保護を当番制とし、職員の休憩時間を確保した。

<p>当年度活動方針と事業の進め方</p>	<p>⑦情報収集体制の強化</p> <p>:多職種連携を強化する</p> <p>市・県・相談事業所・働き暮らし応援センター・特別支援学校・高島病院・琵琶湖病院・滋賀里病院・各グループホーム・B型事業所等との連携強化</p> <p>:SNSの有効活用</p> <p>公式Instagram等の開設による全国の事業所との情報交換と交流を実施する</p>		<p>・高島市自立支援協議会就労支援部会・精神保健福祉部会に参加し、情報収集や各機関との連携に努めた。</p> <p>・各種SNSの来年度中の開設に向け、投稿及び運用に関する管理規定の制定等の準備を行った。</p>
	<p>⑧サービスの質の向上</p> <p>〈就労支援事業への支援〉</p> <p>:個別支援計画の作成 利用者のニーズ調査を徹底し、自立支援につなげる計画を作成する</p> <p>:虐待防止への取り組み チェックリストを評価する仕組みを作成する</p> <p> </p> <p>:職業指導員会議の充実 毎週、具体的な数値をもって開催し、新型コロナウイルス感染症等の不確定要素の危機を事前に察知する</p> <p>:利用者の長期欠席者への対応の充実 定期的な家庭訪問を実施する</p> <p> </p> <p>:各種行事の充実 日帰り旅行や、忘年会等の企画は利用者目線でマンネリ化しないよう、職員がアイデアを出し合い検討する</p> <p>:第三者委員会等への情報提供 苦情案件はもちろん業務遂行上の課題を提出しサービスの向上に努める</p> <p>:就労者の育成 工房から就労者を社会に送り出す</p> <p>:体験実習の受け入れ 体験実習を積極的に受け入れ、契約者の増加に努める</p>	<p>目標 2 回/年</p> <p>目標 1 人/年</p> <p>目標 3 人/年</p>	<p>・個別支援計画作成にあたり、事前に担当職員や利用者本人への課題や要望の聞き取りを行なった。その後、支援計画会議を経て計画を作成し、利用者に説明した。</p> <p>・前年度までのチェックリストがマンネリ化しているため、取り組みの方法を大幅に改善した。職員や利用者に関き取りを行ない、そこから当事業所に合った課題を抽出し、職員全員で行なう虐待防止会議にて話し合い解決策を見出すこととした。</p> <p>・毎週木曜日に開催し、売上や作業の進捗について確認した。その他、利用者工賃の評価システムの見直しと、内職の作業工程の見直しを定期的に行なった。</p> <p>・定期的な家庭訪問を実施したが、利用には結びつかなかった。</p> <p>・利用者からの苦情はなかったが、当事業所に通所する利用者が将来直面するであろう課題について問題提起した。</p> <p>・実績はなかった。</p> <p>・新旭養護学校からの実習依頼はなかった。見学者を1名受け入れたが利用には結びつかなかった。</p>
	<p>〈就労事業への支援＝工賃確保〉</p> <p>:自主製品のネットショップ開設準備 戦略の検討(取り扱い製品・開設市場の動向調査、顧客獲得戦略等)</p> <p> </p> <p>:自主製品の販売店舗の拡大 既存の市内道の駅以外に販売先を開拓をする</p> <p>:よもぎ湯の素の増産体制の確立 ボランティア・職員OBの協力を得た増産体制を確立する</p> <p> </p> <p>:よもぎ湯の素原料の安定確保 従来作業に加え、地元老人会等と委託契約を締結し原料確保の安定化を図る</p> <p> </p> <p>:重度障害者向け新商品の開発 作業工程の一部に、重度障害者が関わられる試作品の検討をする <small>(例:杉板細工、ヒノキ風呂の素、メタセコイア腐葉土等地元観光地とのコラボ商品開発)</small></p> <p>:芸術作品等の商品化の検証 地域のアーティストや大学と連携して開発プロジェクトチームを立ち上げ方向性を模索する</p> <p>:野菜のブランド化の検討</p> <p>・新品種への挑戦と栽培マニュアルの作成。ブランド化に向けた検討をする(障害者+耕作放棄地+地元高齢者=品種とストーリーづくり)</p>	<p>目標 2 店/年</p> <p>目標 100 袋/月</p> <p>目標 1 点/年</p>	<p>・滋賀県社会就労事業振興センターによるコンサルテーションを受け、そこで紹介されたホームページの運営サイト「ベライチ」にて、ホームページ作成の準備をした。その他、滋賀県障害福祉課社会活動係の主導による農福連携推進モデル事業「まん福市場」に出店し、売り上げも向上した。</p> <p>・平和堂今津店にて、他B型事業所が運営する店舗に野菜を販売した。</p> <p>・よもぎ湯の素の製造作業ができる利用者を育成したことに加え、作業工程を見直して職員や利用者の配置転換と作業の効率化を図った。このことにより、前年度の約2倍の増産を実現した。またマキノ日赤奉仕団の協力を得て増産につなげた。</p> <p>・従来通り、春に市内自生地での刈り取り作業を行なった他、今年度より効能の高い秋よもぎの刈り取りを行なった。前年度に比べ1.7倍の売り上げがあった。マキノ町シルバー人材センターにも依頼し、刈り取り場所の確認や作業代金の調整などを行なった。少量ではあるが、無償にて、刈り取ったよもぎの提供もあった。</p> <p>・道の駅マキノ追坂峠での販売用に、木工製品を考案し材料の確保と製品の具体化を進めた。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により参集が難しく、今後検討が必要である。</p> <p>・新たに耕作放棄地を1か所借り上げた。また、さつまいも、じゃがいもを新たに栽培し、市内全域の給食センターに納品した。</p>

<p>当年度活動方針と事業の進め方</p>	<p>⑨安全で衛生的かつ快適な環境の整備</p> <p>: 防災マニュアル・防疫マニュアルの見直し 既存のマニュアルを見直し、職員や利用者へ周知徹底を図る</p> <p>: 消火訓練・避難訓練の実施 消防訓練がマンネリ化しないよう工夫しながら実施する</p> <p>: バリアフリー設備等の老朽化対策 定期的な館内の見回りによる点検と修繕を実施する</p>	<p>目標 2 回/年</p> <p>目標 2 回/年</p>	<p>・令和3年2月に、高島市土砂災害警戒区域に指定されたため、今年度中に避難確保計画を作成し提出した。今後分掌表・防災マニュアルのデータとリンクし、一冊ですべての災害に対応したマニュアルを作成する。</p> <p>・2回実施の予定であったが、予定日に新型コロナウイルスが蔓延していたことにより、1回しか実施できなかった。</p> <p>・作業室の畳が老朽化しているため張替えを検討したが、他に修繕箇所が沢山あったため実施しなかった。</p>
	<p>⑩老人福祉施設と障害者支援施設の併設の強味を活かす</p> <p>: 藤波園入所者との連携強化 土曜開所日のコーヒータイトムや昔の遊び等による交流の企画、農作業の合同作業や、それに伴う「収穫祭」等のイベント開催の企画についてニーズ調査を行ない藤波園と協議する</p>	<p>目標 4 回/年</p>	<p>・藤波園とそれぞれの利用者と職員の交流を目的に、玉ねぎの定植作業を合同実施した。</p>
	<p>⑪地域における公益的な取り組み</p> <p>: 社会貢献事業「行こカー」へ協力 毎月第三火曜日に職員が出役する</p> <p>: 地域の公的な活動への参加 要請に応じ、地域の研修活動、学校の福祉教育に講師として出役する</p> <p>足湯体験等イベントや健康教室への出前講座を行う</p>	<p>目標 12 回/年</p> <p>目標 2 回/年</p> <p>目標 4 回/年</p>	<p>・毎月第三火曜日の午前に、予約があるときのみ出役した。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。</p>
	<p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <p>: 法人本部と連携して魅力ある職場環境の構築を図る</p> <p>・楽しく働ける職場づくり 休憩時間の確保や福利厚生の実等、安心して働ける職場づくりを行う。(再掲)</p>		<p>・前年度同様、昼食時の利用者保護を当番制とし、職員の休憩時間を確保した。(再掲)</p>
	<p>⑬法人のブランド化</p> <p>: 全自主製品にロゴマーク貼り付け検討 たかしま会で採用されたロゴマークを使用する</p>		<p>・たかしま会のロゴマークを、当事業所の自主製品の包材に使用しブランド力を高めるため、効果的なPR方法を検討した。シールを作って包材に貼る方向で準備してきた。</p>
	<p>⑭広報活動の充実(情報発信の強化)</p> <p>: HPや広報誌の発行を充実 法人本部と連携しHPや広報誌の充実を図る</p> <p>: ボランティア団体との共同作業の場の構築 民生・児童委員等に呼びかけ利用者と地域住民との共同作業の場を設け交流を深める</p> <p>: SNSの有効活用 公式Instagram等の開設による事業活動のPRを行う</p>	<p>目標 4 回/年</p>	<p>・法人本部と連携し、今後実施する。</p> <p>・春に、さつまいもの苗植え、秋に玉ねぎの苗植えをマキノ民生委員・児童委員協議会と合同で実施した。</p> <p>・各種SNSの来年度中の開設に向け、投稿及び運用に関する管理規定の制定等の準備を進める。(再掲)</p>
	<p>⑮先進的な技術やITの取り組み</p> <p>: 新型コロナウイルスへの対応として外部研修の受講体制を整える</p> <p>リモート研修を受講できる設備を整える。</p> <p>: (再掲) 自主製品のネットショップ開設準備</p> <p>戦略の検討(取り扱い製品・開設市場の動向調査、顧客獲得戦略等)</p> <p>滋賀県社会就労事業振興センター講師によるコンサルテーションを受ける</p> <p>: (再々掲) SNSの有効活用 公式Instagram等の開設による広報活動の展開</p>	<p>目標 10 回/年</p> <p>目標 4 回/年</p>	<p>・リモート研修受講の環境整備のため、小型のノートパソコンを購入した。</p> <p>・滋賀県社会就労事業振興センターによるコンサルテーションを受け、そこで紹介されたホームページの運営サイト「ベライチ」にて、ホームページ作成の準備をしている。その他、滋賀県障害福祉課社会活動係の主導による農福連携推進モデル事業「まん福市場」に出店登録を行なった。(再掲)</p> <p>・各種SNSの来年度中の開設に向け、投稿及び運用に関する管理規定の制定等の準備を進める。(再々掲)</p>